

# 第6次高浜市総合計画 中期基本計画

## 施策課題カルテ

目標

(11)一人ひとりの元気と健康づくりを応援します

〔とりまとめG〕 福祉部 保健福祉グループ

〔担当G〕 福祉部 生涯現役まちづくりグループ

# I. 目標と目標の達成状況

1. 目指す姿と目安となる指標						
目標	<b>(11)一人ひとりの元気と健康づくりを応援します</b>					
目標達成に向けての考え方	健やかで心豊かに生活していくためには、何よりも健康であることが大切です。一人ひとりが健康の大切さを自覚し、日々、健康づくりを意識した生活を送れるよう、個人の健康を支援するための環境づくりを進めていきます。					
目標が達成された姿	① 一人ひとりが自身の健康状況を把握し、健康づくり活動に積極的に参加しています。 ② 医療、介護、予防、生活支援の連携体制（地域包括ケア）が構築されています。 ③ 誰もが住み慣れた地域や家庭で健康に暮らしています。 ④ 健康づくりに取り組む人と応援する人が増加しています。					
指標の状況	みんなで目指すまちづくり指標	現状値 (H25)	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)
	1) 日常的に運動やスポーツを行っている人の割合	34.8%	35.4%	40.6%		43%
	2) かかりつけ医を持っている人の割合	73.5%	73.5%	76.1%		80%
2. 市民意識調査結果						
設問	現状値 (H25)	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	
一人ひとりの元気と健康づくりを応援しているまちだと思う	57.9%	60.4%	67.6%			
3. 「みんなで目指すまちづくり指標」「市民意識調査」結果に対する現状分析(要因・課題等)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>「指標」の結果は、ともに目標値に向かって上昇、「市民意識調査」の結果も、現状値より10%アップと大きく伸びており、元気と健康づくりを応援するまちづくりが進んでいると考えている。</li> <li>「指標1」は、平成25年度から創出している「健康自生地」の取組みの広がりや、「健康自生地」と絡めた「いきいき健康マイレージ」通帳を持つことによる特典付与、「マシンスタジオ」での認知症予防に効果的な教室等の開催などにより、楽しく健康づくり活動に取り組んだり、興味を持ってもらえるよう工夫してきた結果であると考えられる。</li> <li>「指標2」は、定住自立圏共生ビジョンに基づいた地域医療ネットワークをより多くの市民に知っていただくため、啓発パンフレットを配布して利用を促したことにより、病院と診療所の役割が明確になり、かかりつけ医を持つ人が少しずつ増えてきたと考えられる。</li> <li>「市民意識調査」は、「健康自生地」や「いきいき健康マイレージ」など、地域の活動を絡め、まち全体で楽しく健康づくりに取り組める仕組みを整えてきた結果であると考えている。今後は、若い世代から健康意識を高め、健康づくりに取り組んでもらえるような仕組みが必要である。</li> </ul>						

4. 「目標」と「みんなで目指すまちづくり指標」の適切性	
指標1) 日常的に運動やスポーツを行っている人の割合	
設定根拠	「健康たかはま21」において「身体活動・運動」の分野を掲げています。健康づくり推進委員、NPOやまちづくり協議会など「運動」に関する地域での事業展開と自ら運動に取り組む個人の増加を目指し、1年ごとに2%の上昇を見込み、43%の目標数値とします。
指標の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>「健康づくり」には、日々の適度な運動やスポーツが大切であることから、適切な指標ではあるものの、「マラソン」や「サッカー」などの激しい動きをイメージする場合もある。家に閉じこもらず外出することで体を動かし、人と交流することも「健康づくり」には大切であるため、指標を変更する。</li> <li>変更後：「日常的に外出や運動に取り組んでいる人の割合」</li> </ul>
目標値の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>指標の主旨は従来のもと同じであるため、これまでと同様、毎年2%増やすことを目標とし、平成33年度の目標値を51%とする。</li> </ul>
指標2) かかりつけ医を持っている人の割合	
設定根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>平素の受診に加え、各種健康診査やがん検診、予防接種など医療機関への受診の場面をとおして「かかりつけ医」を持つ機会としてもらう。</li> <li>平成24年度から刈谷豊田総合病院と市内の診療所をインターネットで結び、紹介時の健診予約や検査予約の効率化、更には診療情報の共有化を行う地域医療ネットワークが運用され、医療機関が相互に結びつきを強め、救急患者の集中緩和の他「かかりつけ医」の利用促進が図られている。</li> <li>2012年の実績値は73.5%と、2013年の目標値である72%を超えている。</li> <li>「かかりつけ医」を持つ人の割合を現状値から1年に1.5%の増やすことを目標とする。</li> </ul>
指標の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康管理には、気軽に相談できる「かかりつけ医」を持つことが大切であることから、適切な指標であり、変更はしない。</li> </ul>
目標値の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度の段階ですでに高い値を目標値としているため、後期基本計画では、毎年1%増やすことを目標とし、平成33年度の目標値を84%とする。</li> </ul>

## Ⅱ. 目標達成のための取り組み

### 1. 「こんなことに取り組みます！」を構成するアクションプラン一覧

こんなことに取り組みます！	アクションプラン事業名	
(1) 高齢者の閉じこもり予防、外出の機会となる居場所づくりと、担い手としての活躍の場を創出する生涯現役のまちづくりを進めます。	H26	【No.53】生涯現役のまちづくり事業
	H27	【No.50】生涯現役のまちづくり事業
	H28	【No.48】生涯現役のまちづくり事業
	H29	【No.44】生涯現役のまちづくり事業
(2) 今後、増加が予測される認知症に対応するため早期発見、早期支援を重点的に行う初期集中支援体制を構築します。	H26	【No.54】認知症早期発見事業
	H27	【No.51】認知症早期発見事業
	H28	【No.49】認知症早期発見事業
	H29	【No.45】認知症早期発見事業
(3) 運動機能や認知機能など市民一人ひとりのライフステージやニーズに応じた多様な健康づくり、介護予防や認知症予防のプログラムを構築します。	H26	【No.55】健康づくり応援事業
	H27	【No.52】健康づくり応援事業
	H28	【No.50】健康づくり応援事業
	H29	
(4) 多様な医療ニーズに対応するため、かかりつけ医と病院の病診連携の促進により地域医療を充実します。	H26	【No.56】地域医療振興事業
	H27	【No.53】地域医療振興事業
	H28	【No.51】地域医療振興事業
	H29	【No.46】地域医療振興事業

2. 「こんなことに取り組みます！」の実施内容		
こんなことに取り組みます！	(1)高齢者の閉じこもり予防、外出の機会となる居場所づくりと、担い手としての活躍の場を創出する生涯現役のまちづくりを進めます。	
アクションプラン事業名	H26～H29 生涯現役のまちづくり事業	担当部・グループ 福祉部 生涯現役まちづくりグループ
実施内容	何を・どのように・どうした(どうする) ※箇条書きで記載する	いつ(年月)
平成26年度	①自宅に閉じこもりがちな高齢者が、自らの意思で出かけたいくなるような居場所である「健康自生地」を、街中に新たに26か所創出した(H26年度末63か所)。また、1日限定の健康自生地として、商店振興会との連携による「健康自生地バスツアー」などを新たに実施した。	H26.4～ H27.3
	②健康自生地に関する情報発信(「でいでーる」発刊やメールマガジンの配信、専用ホームページ「たかはま元気 de ねっと」の運用)を行った。	H26.4～ H27.3
	③各健康自生地のより効果的な運営方法や全般的な課題解決策について検討する生涯現役のまちづくり実行委員会を開催した。	H26.4～ H27.3
平成27年度	①健康自生地が集まる「健康自生地フェスタ」を開催した。	H27.8
	②健康自生地を巡る「健康自生地ウォーキングツアー(吉浜地区)」と「健康自生地バスツアー(高浜商店振興会と共催)」を開催した。	H27.11
	③健康自生地スタンプラリーを実施した。(第4シーズン)	H27.12～
平成28年度	①健康自生地が集まる「健康自生地フェスタ」を開催した。	H28.8
	②でいでーるに健康自生地マップを掲載した。	H28.9
	③ホコタッチを使い、健康自生地へ出かけたいくなる仕組みを考えた。	H28.4～9
	④でいでーるに健康自生地を巡るモデルコースを掲載した。	H28.12、 H29.3
平成29年度 (予定)	①認知症予防に効果がある健康自生地の活動を情報発信し、外出や活動への参加を促す。	H30.3
	②健康自生地の担い手や利用者向けに実施したアンケート結果を基に、新たな取組みを検討し、実施する。	H30.3
	③国立長寿医療研究センターと協働で効果測定を行う。	H30.3
「目標が達成された姿」の実現に向けての成果・課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国立長寿医療研究センターとの協働研究による「脳とからだの健康チェック」や「ホコタッチ(活動量計)」の付与などにより、多くの高齢者が自身の健康状態を把握するきっかけを提供することができた。</li> <li>「健康自生地」の取組みは、参加者が楽しみながら健康づくりに取り組むことができるだけでなく、個々の運営は全て地域の人が担っており、地域全体で健康づくりの応援や支え合いの仕組みができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後は、これまで創出してきた「健康自生地」の質の向上や、年齢が上がっても通い続けられる地域の居場所の創出が必要である。</li> </ul>	
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし。</li> </ul>	

2. 「こんなことに取り組みます！」の実施内容			
こんなことに取り組みます！	(2) 今後、増加が予測される認知症に対応するため早期発見、早期支援を重点的に行う初期集中支援体制を構築します。		
アクションプラン事業名	H26～H29 認知症早期発見事業	担当部・グループ	福祉部 保健福祉グループ
実施内容	何を・どのように・どうした(どうする) ※箇条書きで記載する		いつ(年月)
平成26年度	①初期アセスメントとして、基本チェックリストによる認知機能の評価分析を行った。		H26.8
	②国立長寿医療研究センターと連携して、機能健診「脳とからだの健康チェック2014」を実施した。		H26.11
	③「認知症予防スタッフマニュアル」を完成させた。		H27.3
平成27年度	①認知症予防プロジェクトを毎月開催した。		H27.5～
	②認知症予防講演会を実施した。		H27.8
	③機能健診「脳とからだの健康チェック2015」を実施した。		H27.9～
平成28年度	①機能健診「脳とからだの健康チェック」を実施した。		H28.6
	②「脳とからだの健康チェック」結果説明会の開催		H28.4～7
	③「脳とからだの健康チェック」未受診者と新規対象者向けの追加健診を実施した。		H29.2
平成29年度 (予定)	①「コグニライフ教室」を開催し、認知機能の向上に及ぼす効果を検証する。		H30.3
	②認知症サポート医の養成を行う。		H30.3
	③医師会医師とのチーム員会議を継続実施する。		H30.3
「目標が達成された姿」の実現に向けての成果・課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「脳とからだの健康チェック」を受診した4,000人の方々が、ご自身の状態（認知機能と運動）を把握することができ、認知症の早期発見につながった。また、多くの「認知症予防スタッフ」が育成されたことで、今後は各地域において、認知症予防活動を実践することが可能になった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後は、どのような活動を実践することが、認知症予防に効果的であるかを検証する必要がある。また、認知症を発症した場合に、認知機能の低下を緩やかにするための取組みの実施及び受け皿となる医療機関の整備が課題である。</li> </ul>		
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>		



2. 「こんなことに取り組みます！」の実施内容			
こんなことに取り組みます！	(3)運動機能や認知機能など市民一人ひとりのライフステージやニーズに応じた多様な健康づくり、介護予防や認知症予防のプログラムを構築します。		
アクションプラン事業名	H26～H28 健康づくり応援事業	担当部・グループ	福祉部 生涯現役まちづくりグループ
実施内容	何を・どのように・どうした(どうする) ※箇条書きで記載する		いつ(年月)
平成26年度	①いきいき広場マシンスタジオを運営した。		H26.4～ H27.3
	②いきいき健康マイレージ健康づくり応援ポイントを実施した。 (登録者数 H26年度末 1,004人)		H26.4～ H27.3
	③いきいき健康マイレージ事業運営委員会を開催した。		H27.2
平成27年度	①若年層の健康づくりを目的とした「ズンバ」を始めた。		H27.4
	②いきいき健康マイレージ健康づくり応援ポイントを実施した。 (登録者数 H27年度末 1,135人)		H27.4～
	③いきいき健康マイレージ事業運営委員会を開催した。		H27.9
平成28年度	①いきいき健康マイレージ健康づくり応援ポイントを実施した。 (登録者数 H29.2末 1,188人)		H28.4～
	②認知症予防に効果的な「コグニサイズ教室」を始めた。		H28.5
	③マシンスタジオの器具のリニューアルを実施した。		H28.7
	④認知症予防に効果的なトレーニング機器「コグニバイク」を導入した。		H28.11
平成29年度 (予定)	①あいち健康マイレージ事業との協働事業「たかはま健康チャレンジ事業」を開始する。		H29.4
	②マシンスタジオを運営する。		H29.4～
	③いきいき健康マイレージ事業(福祉ボランティア活動)の健康づくり応援ポイントを実施する。		H29.4～
「目標が達成された姿」の実現に向けての成果・課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「いきいき健康マイレージ」健康づくり活動参加者への保健師面談により、自身の健康状態を把握しながら、個人個人に合った健康づくり活動に取り組んでいただいている。福祉ボランティア活動では、地域で支え合う担い手づくりに寄与している。</li> <li>マシンスタジオでは、認知症予防に効果のある教室の開催や機器の導入などを行ったことで、より多くの方に自身の健康に関心を持って参加していただけるようになった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後は、若い世代から健康意識を持ち、健康づくりに取り組んでもらえるような仕組みが必要である。</li> </ul>		
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし。</li> </ul>		

2. 「こんなことに取り組みます！」の実施内容			
こんなことに取り組みます！	(4) 多様な医療ニーズに対応するため、かかりつけ医と病院の病診連携の促進により地域医療を充実します。		
アクションプラン 事業名	H26～H29 地域医療振興事業	担当部・グループ	福祉部 保健福祉グループ
実施内容	何を・どのように・どうした(どうする) ※箇条書きで記載する		いつ(年月)
平成26年度	①医科・歯科休日当番医の実施と市民へのPRを行った。		H26.4
	②病院群輪番制による2次医療救急体制を確保した。		H26.4
	③定住自立圏共生ビジョンに基づき地域医療ネットワークの運用を行った。		H26.4
平成27年度	①医科・歯科休日当番医の実施と市民へのPRを行った。		H27.4
	②病院群輪番制による2次救急医療体制の確保を行った。		H27.4
	③地域医療ネットワークを知っていただくため啓発を行った 「上手なお医者さんのかかり方」パンフレットを配布した。		H28.2
平成28年度	①医科・歯科休日当番医の実施と市民へのPRを行った。		H28.4
	②病院群輪番制による2次医療救急体制を確保した。		H28.4
	③定住自立圏共生ビジョンに基づき地域医療ネットワークの運用を行った。		H28.4
平成29年度 (予定)	①医科・歯科休日当番医の実施と市民へのPRを行う。		H30.3
	②病院群輪番制による2次救急医療体制を確保する。		H30.3
	③定住自立圏共生ビジョンに基づき、地域医療ネットワークの運用を行う。		H30.3
「目標が達成された姿」の実現に向けての 成果・課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定住自立圏共生ビジョンに基づく地域医療ネットワークが構築され、刈谷豊田総合病院と各診療所がインターネットで結ばれるようになった。このことにより、診療や検査の予約がオンラインで行われるとともに、カルテ情報が共有化されるようになり、利便性が向上した。既に、市内の15の診療所がこのネットワークを活用しており、かかりつけ医を持つ市民の増加につながった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>病院と診療所の役割を明確にして、市民一人ひとりがかかりつけ医を持つよう、更なる周知、情報発信が必要である。</li> </ul>		
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし。</li> </ul>		





### Ⅲ. 今後の取り組みの方向性

#### 1. 今後予想される社会変化や動向、新たな課題

- 平成 29 年度より新しい総合事業への完全移行となり、介護保険のサービスを利用しない（介護認定に至らない）高齢者が増加するため、重度化予防の取り組みや住民主体のサービス、住民同士の支え合いなどの充実が求められる。

#### 2. 今後、特に力を入れる取り組み（優先度の高いもの3つ）

##### （1）高齢者の居場所及び生きがいつくりの充実

- 「健康自生地」の認定が始まって3年が経過したことから、数だけでなく、質の向上を図る必要がある。
- 認定後1年以上経過した健康自生地の再審査に加え、担い手や利用者向けのアンケートの実施、健康自生地スタンプラリーの参加状況の分析などから、実態調査や課題解決策の検討を行う。
- 年齢が上がったり、体が少し弱ってきたりした方でも、通い続けられる地域の居場所を増やしていく必要がある。

##### （2）若い世代の健康づくり活動の促進

- これまで「健康自生地」や「いきいき健康マイレージ」など、高齢者向けの健康づくり活動を充実してきたが、若い世代は、仕事や子育てなどに追われ、自身の健康状態の確認や健康づくりのための取り組みなどは後回しになりがちである。
- 高齢になってからの疾病や介護、認知症等のリスクを下げるためにも、若い頃から健康意識を高め、良い生活習慣を送っていただくきっかけづくりが必要である。
- 高齢者に限定しない健康づくり応援制度を実施する。

##### （3）認知症予防に効果的な活動を分析し、地域で実践する仕組みをつくる

- どのような活動を実践することが、認知症予防に効果があるのかを検証する（効果測定）とともに、効果的な活動を広くPRする。
- 認知症予防に効果のある活動をさまざまな地域で実施し、多くの市民に参加してもらえるような仕組みを構築する。

### Ⅳ. 施策(目標)構成の検証

- 現状のままで良い。